

見 積 実 例 ： 転圧コンクリート舗装工事

実績方式による

工 事 概 要

工 程 表

概 要 図

特 記 仕 様 書

見 積 総 括 表

単 価 表

単価表の見方・使い方

1. ここに掲載した単価は、モデル工事を施工するのに必要な単価である。土木工事は1件ごとに各種条件が異なり相当の差額が生じる場合もあるので、利用にあたっては十分留意されたい。
2. 単価の基礎は、関東一円の比較的大手の建設会社の平均的な施工単価であるので参考にされたい。
3. 内訳は、下請経費を含む複合単価方式としており、一位代価表は作成しない。
4. 主要材料の単価は、原則として「建設物価」最新号の埼玉県熊谷地区単価を採用したが、同誌に掲載ないものについては別途に調査して採用した。
5. 数量は実際の施工数量とし、割増率等については、積算基準書の率を採用して必要量を計上した。

1. 工事概要

1. 工事のあらまし

当工事は、東京から 50km 圏の北関東地区における施工延長 860m の一般国道バイパス舗装新設工事である。その舗装は転圧コンクリート舗装(R C C P)により施工するものである。歩道はアスファルト舗装とし、街渠工などの排水工や防護柵、区画線などの付帯工事を伴うものである。途中に市道との交差点が 1 箇所存在する。

2. 工事内容

工 事 名：国道 号線バイパス舗装新設工事

工事場所： 県 市

発 注 者：国土交通省 国道工事事務所

設 計 者：国土交通省 国道工事事務所

請 負 者： 建設株式会社

請負金額：¥ , , 円

工 期：自 平成 年 月 日

至 平成 年 月 日 (200 日間)

工事規模：総延長

一般部延長 540m (歩道あり)

交差点部延長 320m (歩道なし)

(うち両側の各 60m は幅員が 8.25m から 11.25m に広がるすりつけ部)

交差点取付部 90m

(市道の部分を施工するものである)

施工幅員

一般部 8.25m

交差点部 8.25 ~ 11.25m

交差点取付部 7.5 ~ 11.5m

歩道 3m

舗装断面

一般部, 交差点部

セメント安定処理路盤 t = 25 cm

R C C P 舗装 t = 25 cm

交差点取付部

セメント安定処理路盤 t = 20 cm

R C C P 舗装 t = 25 cm

歩道

粒調碎石路盤 t = 10 cm

細粒アスファルトコンクリート t = 4 cm

排水工

街渠工、街渠ますなど 1 式

雑工事

防護柵工、区画線工など 1 式

3. 主要工事数量

土工	
盛土工	1,990m ³ (運搬距離 4.7 kmの指定土取場から搬入、施工)
路盤工	
準備工 (不陸整正)	11,873 m ²
セメント安定処理路盤 (t = 25 cm)	9,178 m ²
" (t = 25 cm)	895 m ²
粒 調 砕 石 路 盤 (t = 10 cm)	1,800 m ²
舗装工	
コンクリート舗装工	
型枠工 (t = 25 cm)	2,262m
R C C P舗装工	8,670 m ²
目 地 工	2,349m
アスファルト舗装工	
歩道舗装工	1,710 m ²
排水工	
街 渠 工	570m
街渠ます	30 箇所
雑工事	
防護柵工	1,090m
区画線工	1 式

4. 施工の条件

交差点の現状は市道と交差しており、信号機は設置されていない。路線バスは 1 時間に 1 往復が運行されている。

路 床

路床までは別途工事で改良済みである。

盛 土

盛土材料は指定土取場から採取運搬（運搬距離 4.7 km）する。

準備工

グレーダでかき起こし整正を行い、補足材は別途として計上しない。

セメント安定処理路盤

中央混合式とし、グレーダ 2 層式ならし、2 層転圧とする。

転圧コンクリート舗装（RCCP）

使用機械：敷きならし

全自動高締固め型アスファルトフィニッシャ（輸入、幅 3～12m）を使用する。

使用機械：転 圧

ゴム加工車輪振動ローラ（11～12 t）、タイヤローラ（11～30 t）を使用する。

交差点部敷きならし方法：

伸縮スクリードタイプアスファルトフィニッシャを使用する。スクリード片側 30 cm を超える拡幅ごとにスクリュウ取付け作業を行う。

舗装材料：

定置式（バグミルミキサ）コンクリートプラント（現場から 2km の距離にある）から購入し、ダンプトラック（10 t）で運搬する。

型 枠：

コンクリート舗装用鋼製型枠を使用する。

収縮目地：

1 枚刃による一次切削のあとに、正規に二次切削を行う。

膨張目地：

1 枚刃による一次切削の後に、正規の二次切削を行い、目地盤を挿入する。

養 生：

7 日間の散水養生を行う。

区画線

高視認性路面表示（溶融式）を採用する。

横断歩道及びゼブラ

溶融式路面表示を採用する。

安全環境保全対策

通常以上の特別の考慮を必要としないが、交通整理員を 2 名配置する。

電力・水道の現地における引込み及び下水道への排水は容易である。

従業員の宿舍を現地に設備する。仮設建物以外の仮設工事は不要である。

稼働日の作業時間は午前 8 時～午後 5 時（昼休み 1 時間）とし、日曜日及び土曜日を休業日とする。

当工事の施工は、国土交通省土木工事共通仕様書及び特記仕様書に準拠するものとする。

2 . 施工の方法と手順

契約して現場に乗り込んだら、まず、現場に近い民有地を借り上げて工事基地を設け、仮設建物を建てるなどの仮設工事を行う。仮設工事が終了したら直ちに直接工事にかかり、終了後仮設建物などの撤去復旧跡片付けを行い、工事が終了する。

(1) 仮設工事

前述のように、第1に工事基地を設営して仮設建物を建て、その給排水設備及び電力設備を設ける。

仮設建物の内訳は次のとおりである。

現場事務所、試験室、倉庫、……各1棟

併行して準備の測量などを行う。

これらの仮設工事は当初の1箇月間に施工する。

(2) 直接工事

第2箇月目から直接工事にとりかかる。

ア．土工工事

直接工事の第一番に土工工事に着手する。

路肩用の盛土材料を4.7 km離れた指定土取場でバックホウ(0.8m³)で採取してダンプロック(10 t)に積込み、現場まで運搬し、タイヤローラ(8~20 t)及びビプロランマで締固める。20日間を見込む。

衣土用の盛土材料は、舗装工事終了後に同様にバックホウ(0.8m³)にて採取し、ダンプロック(4 t)で運搬して、人力により盛り付ける。半月を見込む。

イ．路盤工

(ア)準備工

土木工事が始まって15日目位からモータグレーダ(幅3.1m)による既設路床面の不陸整正を行い、タイヤローラ(8~20 t)、マカダムローラ(10~12 t)により転圧する。

歩道部は人力により整正し、コンバインドローラ(3~4 t)にて転圧する。

路盤工の工程は1箇月を見込む。

(イ)セメント安定処理工

セメント安定処理剤は、中央混合により現場に納入する。これをモータグレーダ(幅3.1m)により2層に敷きならし、それぞれタイヤローラ(8~20 t)及びマカダムローラ(10~12 t)で転圧する。

転圧後、プライムコートを施工する。

一般部及び交差点取付部とも同様な手順で行う。工程は約20日を見込む。

歩道路盤工は、車道の転圧コンクリート舗装が終了後、粒調碎石を人力により敷きならし、コンバインドローラ(3~4 t)で転圧する。

ウ．排水工

3箇月目の下旬から舗装工に先立って街渠及び街渠ます設置などの排水工を施工する。工程は約1箇月を見込む。

エ．舗装工

第4箇月の下旬、排水工終了を受けて、いよいよ転圧コンクリート舗装工に着手する。

(フ) 型枠工

鋼製型枠（ $h=25\text{cm}$ $l=3\text{m}$ ）を建込み、片押しでブロックごとに順次舗装工事を行う。

(イ) 転圧コンクリート舗装工

現場から 2km のところに生コンプラントがあり、そこで購入してダンプトラック（10t）で運搬し、前述のブロック内にまき出す。全自動高締固め型アスファルトフィニッシャ（幅 3～12m）で敷きならし、ゴム加工車輪振動ローラ（11～12t）とタイヤローラ（11～30t）にて転圧する。一般部、交差点部とも同様の手順で施工する。

(ウ) 養生工

養生マットにより、散水養生をブロックごとに 7 日間行う。

(エ) 目地工

横収縮目地、横膨張目地、縦目地とも、コンクリート打設後、施工の条件に前述した手順で順次施工する。

(オ) 歩道舗装

粒調碎石路盤上にプライムコートを施工し、細粒度アスファルト混合物を約 1 km 離れた所にあるアスファルトプラントから購入搬入して、アスファルトフィニッシャ（幅 2.4～5m）にて敷きならし、コンバインドローラ（3～4t）で転圧する。

舗装工は、工程を約 2 箇月見込み、第 6 箇月めで終了する。

オ．雑工事

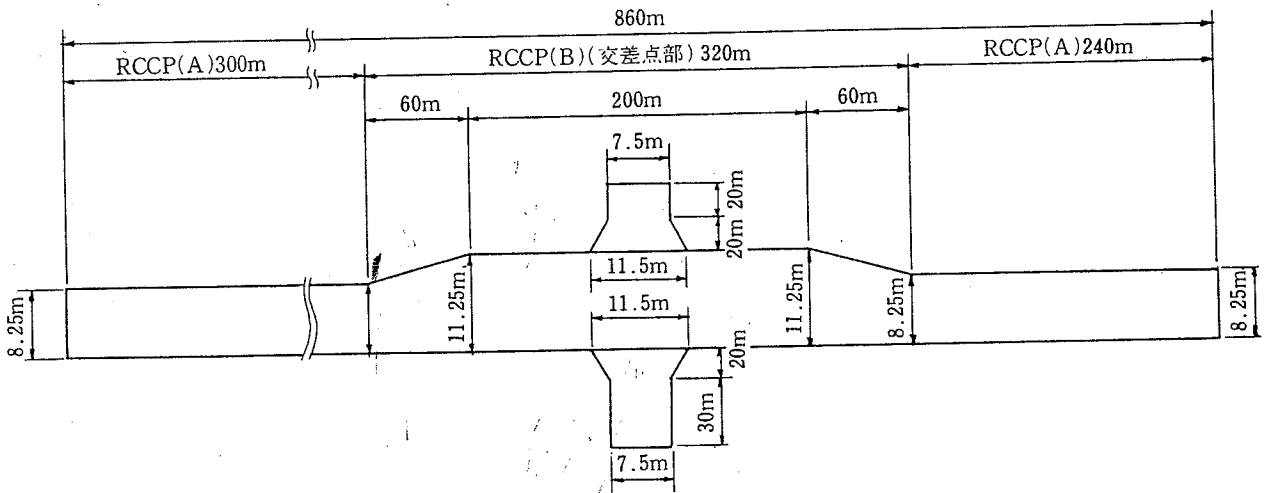
第 7 箇月目頃から、ガードレール、ガードパイプなどの防護柵、区画線と横断歩道及びゼブラを設ける。約半月を見込む。

これで直接工事は終了である。

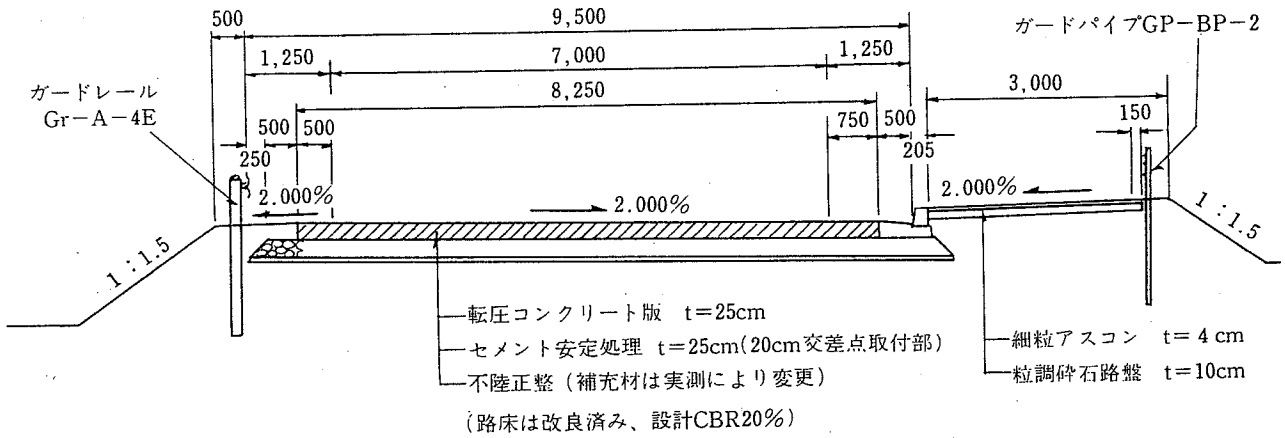
(3) 仮設建物撤去及び跡片付け

工事基地内の仮設建物を給排水設備、電力設備とともに撤去搬出し、基地を復旧する。そして現場全体の跡片付けをして当工事の竣工となる。

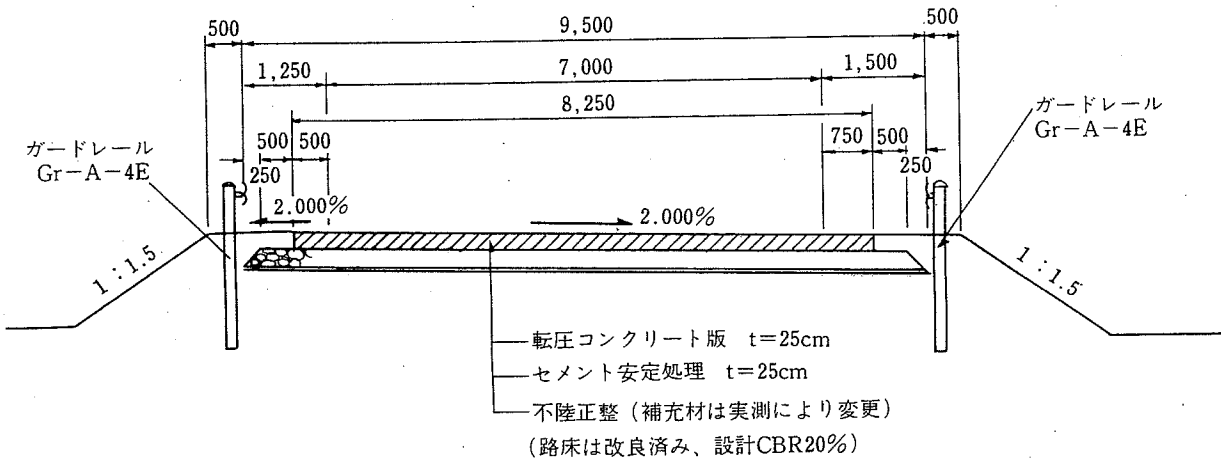
転圧コンクリート舗装平面展開図



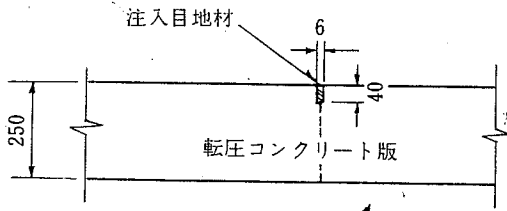
標準横断面図(A)



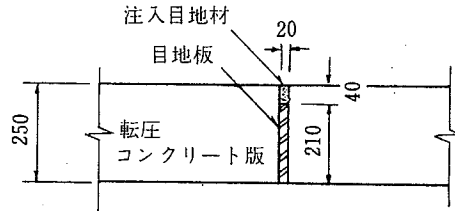
標準横断面図(B)



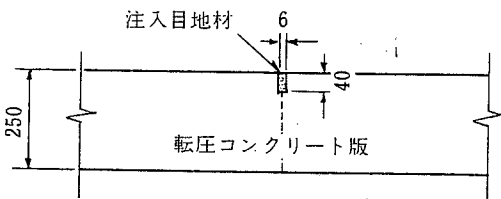
横収縮目地詳細図



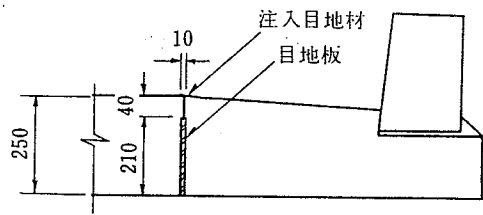
横膨張目地詳細図



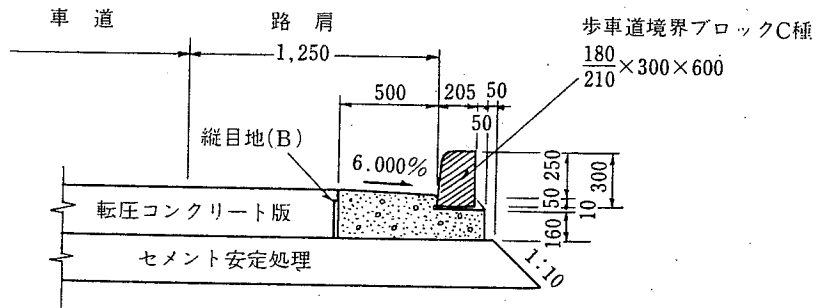
縦目地詳細図(A)



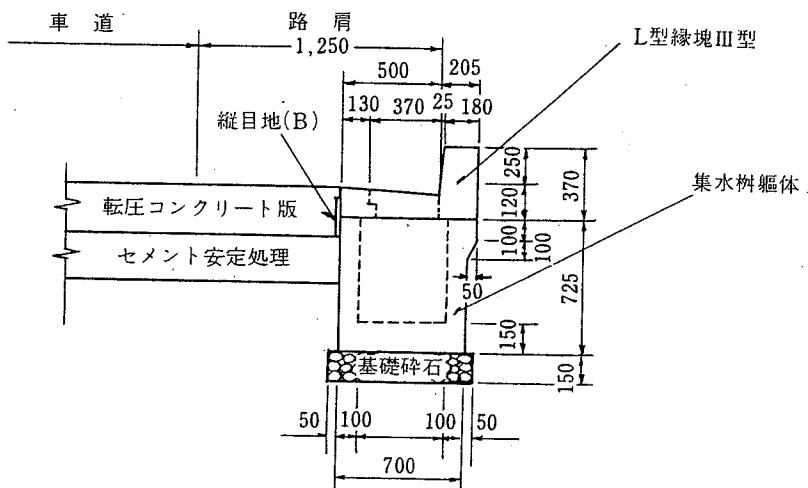
縦目地詳細図(B)



街渠(A)詳細図



街渠柵(A)詳細図



転圧コンクリート舗装(RCCP)工事工程表

費目	工種	種別	細別	1	2	3	4	5	6	7
転圧コンクリート舗装	準備工		事務所仮設・片付け、 事前・後測量	■						■
	土工				■					■
	路盤工	路盤工	準備工		■	■				
			Cst(t=25cm)			■				
			Cst(t=20cm)			■	■			
			歩道路盤工							■
	舗装工	転圧コンクリート 舗装	RCCP舗装(A)				■	■		
			RCCP舗装(B)					■	■	
		アスファルト舗装	歩道舗装							■
	排水工	街渠	街渠(A)			■	■			
		街渠樹	街渠樹(A)			■	■			
	雑工	防護柵	ガードレール・ガードパイプ							■
		区画線工	高輝度路面表示							■
	交通整理員				■	■	■	■	■	■

主要機械工程表

機種	規格	台数	1	2	3	4	5	6	7
バックホウ	山積 0.8m3	1		■					■
ダンプトラック	4t	2						■	■
"	10t			■			■	■	
モータグレーダ	幅3.1m	1		■	■				
ブルドーザ	15t	1		■					
タイヤローラ	8~20t	1		■	■				
"	21~30t	1					■	■	
マカダムローラ	10~12t	1		■	■				
振動ローラ	ゴム加工車輪 11~12t	1					■	■	
コンバインドローラ	3~4t	1							■
アスファルトフィニッシャ	高締固め型 幅3~12m	1					■	■	
"	高締固め型 幅3~12m	1							■

転圧コンクリート舗装工事

特記仕様書

第1章 総 則

- 第 1条 適用
この特記仕様書は土木工事共通仕様書でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。（以下省略）
- 第 2条 現場代理人及び主任（監理）技術者
本工事の主任技術者または監理技術者は、請負者が提出した技術資料に記述した配置予定の技術者でなければならない。
- 第 3条 施工計画書
請負者は競争参加資格確認申請書（技術資料）に記述した施工計画に基づき施工計画書を作成し、施工しなければならない。
- 第 4条 工事カルテの作成、登録
請負者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、実績情報システム（CORINS）に基づき、受注・変更・完成時に工事実績情報として「工事カルテ」を作成し監督職員の承認を受けたうえ、登録を行なうものとする。（以下省略）
- 第 5条 低入札価格調査制度調査対象工事について
1. 予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、施工体制台帳を事務所に提出しなければならない。
2. 第1項の書類の提出に際して、その内容のヒアリングを事務所に求められたときは、請負者の支店長、営業所長等は応じなければならない。
（以下省略）
- 第 6条 現場技術員
本工事は、現場における現場技術業務を（社） 建設弘済会に委託している。なお本工事を担当する現場技術員の氏名は下記のとおりである。
現場技術員
- 第 7条 現場の管理
請負者は、管理技術者、主任技術者（協力業者も含む）及び元請けの専門技術者（専任している場合のみ）工事現場内において、工事名、工期、顔写真、所属会社名及び、社印の入った名札を着用させるものとする。
注1）名札の大きさは名刺サイズ以上とする。
注2）所属会社の社員とする。
- 第 8条 施工体制の点検
請負者は「公共工事の入札及び契約の適性化の促進に関する法律」第13条 2

により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。（以下省略）

第 9条 現場発生品

現場発生品の量、引渡し場所、運搬距離等（以下省略）

第10条 建設副産物情報交換システムの活用について

本工事は建設副産物情報交換システムの登録対象工事であり、請負者は、施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの入力を行なうものとする。

第11条 建設副産物実態調査の提出について

本工事は建設副産物実態調査（サンセス）の対象工事であり、監督職員から貸与された、建設副産物情報交換システムの「建設リサイクルデータ統合システム（CREDA S）」（以下「統合システム」という）により建設副産物の品目についてのデータを入力後、データが保存されたF D及び出力した調査表 1 部を監督職員に速やかに提出すること。（以下省略）

第12条 公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び再資源活用工事実施要領について

1. 再生資材の活用

請負者は下記の資材の使用に際し、再生資材を利用するものとする。

資 材 名	規 格	備 考
再生クラッシャーラン	RC 40 40～0	構造物基礎

なお、使用に際し「プラント再生舗装技術指針」等を遵守するものとする。

2. 指定副産物は下記の場所に搬出することとする。

（以下省略）

3. 特定建設資材の分解解体等の再資源化等

（以下省略）

第13条 施工管理

1. 本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値によるものとする。

2. 本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準によるものとする。

3. 工事写真の原本を電子媒体で提出する場合には、工事着手前に別紙 -1に示す管理項目について、デジタル写真管理情報基準（案）に規定するデータ形式でF D等に保存し、監督職員に提出し確認を受けなければならない。

第14条 特殊車両通行許可関係の図書の提出
省略

第15条 工事中の安全確保

1. 工事の施工にあたっては、「道路工事保安施設設置基準」及び別紙「追加保安施設設置基準（案）」及び「追加安全施設設置基準（案）の運用」別紙 -2

に基づき適切な交通管理を行なうものとする。ただし、これによりがたい場合は監督職員と協議するものとする。

2. 工事期間中に配置する交通誘導員は以下の通り計上するものとする。ただし現場精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

工 種	作業区分	延人数	備 考
全体工事（22人/月×10ヶ月）	昼間作業	220	交替要員あり

3. （以下省略）

第16条 交通整理・誘導員の資格

配置する交通整理員・誘導員については資格者（警備業法第11条 2に規定する都・県公安委員会の行なう1級または2級検定に合格した者）1名以上を充て、他は経験者1年以上の者とする。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議すること。

第17条 工事現場管理

請負者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

1. 積載制限を越えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし枠装着車、不表示車等に積み込まず、また積みこませないこと。
3. 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂の引渡しを受ける等過積載を助長することがないようにすること。
4. 取引関係にあるダンプカー事業者が過積載を行ない、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第18条 交通規制日数の報告

現道上での工事交通規制を実施した場合には、月ごとに実交通規制日数を監督職員へ提出する。

第19条 建設機械の使用

1. 一般工事用排出ガス対策型建設機械の使用について
本工事に使用する建設機械は、排出ガス対策型建設機械を原則とする。
（以下省略）
2. 低騒音型建設機械の使用について
本工事に使用する建設機械は、低騒音型建設機械を原則とする。
（以下省略）

第20条 工事現場のイメージアップ

1. 工事現場のイメージアップを実施する。
2. イメージアップの内容については下記のとおりとする。
 - (1) 仮設備
完成予想図の掲示板及びフラワーポット等の設置

(2) 安全施設

バリケード等のイメージアップを行なう。

3. 工事完了時には、イメージアップの実施写真を提出するものとする。

第21条 工 期

工期は雨天、休日を含み契約の翌日から140日間とする。なお休日には土曜日、日曜日、祝日、年末年始休暇を含む。

第22条 施工時間

昼間作業 8：00～17：00

夜間作業 20：00～ 5：00

第23条 工事支障物件等

1. 工事着手前に支障物件（地上・地下）等を調査し監督職員に報告すること。
なお、工事に支障のある場合には、監督職員と協議すること。

第24条 概算・概算数量

本工事は概略数量を示したものであり、詳細については、監督職員の指示によるものとする。

第25条 新技術活用の報告

本工事の施工においては、発注者の提供する「新技術情報提供システム（NETIS）」に掲載されている技術を使用した場合は別紙 3の様式により、監督職員に報告しなければならない。

第26条 工事における創意工夫実施等実施状況の請負者からの提出。

請負者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目または、地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について工事完了後までに別紙 4の様式により提出することができる。

第27条 工事実施形態

1. 本工事は、「公共事業支援統合情報システム」（建設CALLS）の実証フィールド実験対象工事である。請負者は、工事施工に合わせて、公共事業支援統合情報システムの適応性および対応策の調査に協力しなければならない。
なお、内容については監督職員の指示によるものとする。

第28条 電子納品

1. 本工事は、電子納品対象工事とする。電子納品とは、調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子データで納品することをいう。
ここでいう電子データとは、「工事完成図書等の電子納品要領（案）：以下要領という」に示された、ファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。
2. 工事完成図書は、「要領」に基づいて作成したデータを電子媒体（CD-R）で2部提出する。「要領」で特に記載のない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監

督職員と協議の上、電子化の是非を決定する。なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品運用ガイドライン（案）」、「CAD製図基準に関するガイドライン（案）」を参考にするものとする。

3. 工事完成図書の提出の際は、電子納品・保管管理システムチェックシステムによるチェックを行ない、エラーがないことを確認した後、ウイルス対策を実施した上で提出するものとする。

第2章 材 料

第29条 砕石

1. クラッシャーラン路盤材料は再生砕石（RC-40）とする。
2. 粒度調整砕石路盤材は、粒度調整砕石（M-30）とする。

第3章 一 般 施 工

第30条 一般施工

1. 工事着手前に、工事区域内及びその周辺について状況調査を実施し、状況を十分に把握しておくこと。また、施工にあたり、既設構造物には十分に配慮し、実施するものとする。
2. 本工事の設計趣旨を十分理解し、上記をふまえて良好な施工に努めなければならない。
3. 本工事の施工開始前に現況調査を行ない、それに基づき平面・横断・縦断等について検討を行なうものとし、その結果について監督職員と協議するものとする。

第4章 土 工

第31条 盛土採取土

1. 採取土は、指定採取場より採取するものとする。運搬距離は4.7kmとする。ただし、これにより難い場合は監督職員と協議するものとする。

第32条 建設発生土

構造物の掘削残土は、周辺に敷き均すものとする。

第5章 無筋・鉄筋コンクリート

第33条 レディミクストコンクリート

1. コンクリートはレディミクストコンクリートを原則とし、下記仕様によるものとする。

用途	粗骨材の最大寸法	スランプ	呼び強度 N/mm ²	セメントの種類
小型構造物 t 160	40mm	8±2.5cm	18	高炉セメントB種
小型構造物 t < 160	25(20)mm	8±2.5cm	18	高炉セメントB種
RCC舗装	25(20)mm		曲げ強度5	普通セメント

ただし、これによりがたい場合は、監督職員と協議するものとする。

なお、RCCP舗装のコンシステンシーの目標値は、マーシャル突き固めにおける締固率96%を標準とする。

2. コンクリートの耐久性向上の対策は、「コンクリートの耐久性向上の仕様書」(土木編)により行なうものとする。

第34条 配合

1. 水セメント比については、示方配合表により監督職員の承認を得なければならない。なお、水セメント比を減じることにより施工が著しく低下する場合は、必要性に応じて高性能の減水剤の使用を検討しなければならない。また下記の構造物には適用除外とする。
 - ・ 仮設構造物(建設後数年のうちに撤去するもの)。
 - ・ 高さ1m未満の擁壁・水路・側溝および街渠等の構造物。
 - ・ 管(函)渠等(600未満、600×600未満)等の構造物。
 - ・ 道路照明、標識、防護柵等の構造物。
 - ・ 耐久性を期待しない構造物。
 - ・ 河川における護岸構造物(特殊堤、船着場等は除く)。

第4章 RCCP舗装工

第35条 RCCP舗装の施工

1. RCCP舗装の施工については、全面積を機械施工で考えているが、目地割等によりそれにより難しい場合は、監督職員と協議すること。

第36条 成型目地工

1. 目地に用いるプライマーは瀝青ゴム系接着剤とし、塗布量は0.4L/m²を標準とする。
2. 目地材の規格は、セメント舗装要綱 5.(5)に準ずる。目地材料は使用以前に品質証明書を監督職員に提出し、承諾を得るものとする。

第37条 目地割

1. 工事施工に先立ち、現地状況及び利用計画等を考慮し、コンクリート舗装、RCCP舗装の目地割図を作成し、監督職員と協議するものとする。

第38条 試験

RCCP舗装の配合設計時及び施工時には品質試験を行なうものとし。試験の方法、頻度について予め計画書を監督職員に提出し、承諾を得るものとする。

第5章 そ の 他

第39条 完成図

1. 工事完成図については「工事完成図書等の電子納品要領(案)」に従い作製するものとする。
2. 透明フィルムの枚数及び青焼き図面(下記参照)の部数は、監督職員の指示によるものとする。

名 称	適 用
透 明 フ ィ ル ム	製本したもの
青 焼 き 製 本	青焼き製本し、着色したもの
青 焼 き 図 面	青焼き製本し、着色したもの

第40条 道路施設基本データの作成

本工事完成時には、以下に示す「道路施設基本データ」を作成し、監督職員に提出するものとする。ただし、本工事に該当しない施設の基本データは作製しないものとする。

なお、完成後でも、甲は乙に対して「道路施設基本データ」の内容について説明を求めることがある。

第41条 震災対策

1. 地震発生等の天災に備えてあらかじめその対応策を定めておくものとする。
2. 地震予知情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保全措置を講ずるものとする。

第42条 ガソリン税看板の設置及び管理

1. 道路工事保安施設設置基準 6 - の表示板には、下記の P R 表示を記入するものとする。なお、” 御通行中の皆様へ ” の表示内容は適切かつ簡潔にまとめるよう努めるものとする

下記の P R 表示 省略

2. 看板は、P R 表示の汚染、はがれ、破損等が起こった場合は、速やかに処置し善良なる管理を行わなければならない。

転圧コンクリート舗装工事見積総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額
直接工事費				式	1.0		113,050,000
1.土工				式	1.0		3,711,700
	1.1盛土工			式	1.0		3,711,700
		盛土(路肩)	採取土 指定採取場	m3	1,690.0	1,630.0	2,754,700
		盛土(衣土)	採取土 指定採取場	m3	300.0	3,190.0	957,000
2.路盤工	2.1路盤工			式	1.0		29,910,000
		準備工・車道部		m2	10,073	160	1,561,315
		準備工・歩道部		m2	1,800	440	792,000
		Cst路盤工	t=250 一般部	m2	9,178	2,560	23,502,209
		Cst路盤工	t=200 交差点部	m2	895	2,200	1,973,351
		歩道路盤工	木製	m2	1,800	1,150	2,075,220
		雑工材雑工		式	1.0		5,905
3.舗装工				式	1.0		63,046,750
	3.1コンクリート舗装工			式	1.0		60,420,750
	型枠工			式	1.0		10,377,960
		型枠工(A) 一般部	h = 250	m2	1,422.0	4,380	6,228,360
		型枠工(B) 交差点部	h = 250	m2	840.0	4,940	4,149,600
	RCCP舗装工			式	1.0		40,431,470
		RCCP舗設 (A)	t=250 一般部	m2	4,455.0	4,520	20,129,530
		RCCP舗設 (B)	t=250 交差点部	m2	4,215.0	4,820	20,301,940
	養生工			式	1.0		5,267,275
		養生工(A)	一般部	m2	4,455.0	530	2,356,550
		養生工(B)	交差点部	m2	4,215.0	690	2,910,725
	目地工			式	1.0		4,340,390
		横収縮目地		m	738.0	1,600	1,180,800
		横膨張目地		m	58.0	6,610	383,380
		縦目地(A)		m	965.0	1,250	1,206,250
		縦目地(B)		m	588.0	2,670	1,569,960
	雑材雑工			式	1.0		3,655
	3.2アスファルト舗装工			式	1.0		2,626,000

転圧コンクリート舗装工事見積総括表

工 種	種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額
		歩道舗装工	細粒度As t=40	m2	1,710.0	1,540	2,626,000
4.排水工				式	1.0		6,206,550
	4.1街渠工	街渠(A)	歩車道境界ブロック	m	570.0	8,640	4,924,100
	4.2街渠柵工	街渠柵A型	L型縁塊	個	30.0	42,750	1,282,450
5.道路付属施設工				式	1.0		9,925,000
	5.1防護柵工			式	1.0		8,450,500
		ガードレール 設置工	土中建込用 A-4E	m	780.0	7,110	5,545,800
		ガードパイプ 設置工	土中建込用 BP-2E	m	310.0	9,370	2,904,700
	5.2区画線工						1,445,587
		区画線 実線	高視認性路面表示	m	2,117.0	549	1,162,042
		区画線 実線	W=150(溶融式)	m	252.0	570	143,718
		横断歩道 及びゼブラ	溶融式路面表示	m2	220.0	636	139,827
	5.3雑工			式	1.0		28,913
		雑工雑工		式	1.0	28,913	28,913
6.仮設工				式	1.0		250,000
	6.1現場照明設備工	現場照明設備工		式	1.0		250,000
共通仮設費							24,200,000
7.運搬費							2,006,000
8.準備費							1,888,000
9.役務費							2,079,000
10.安全費							5,170,000
11.技術管理費							1,820,000
12.営繕費							11,237,000
純工事費							137,250,000
13.現場管理費				式	1.0		¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥
工事原価							¥¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥
14.一般管理費等				式	1.0		¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥
工事価格							¥¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥
15.消費税等相当額				式	1.0		¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥
工事費計							¥¥¥, ¥¥¥, ¥¥¥

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
2. 路 盤 工						
2.1路盤工						
準備工・車道部		m2	10,073.0	160	1,561,315	
	かき均し・整正工	m2	10,073.0	110		モータグレーダ ブレード幅3.1m 手元共
	転圧工	m2	10,073.0	45		タイヤローラ8～20tマカダム ローラ10～12t
	補充剤	m3	0.0			必要に応じて計上
準備工・歩道部		m2	1,800.0	440	792,000	
	人力整正工	m2	1,800.0	360		
	転圧工	m2	1,800.0	80		振動ローラ 搭乗式コンバインド型3～4t 排ガ型
	補充剤	m3	0.0			必要に応じて計上
セメント安定処理路盤工	一般部 t=25cm	m2	9,178.0	2,560	23,502,209	
	セメント安定処理材	m3	2,914.0	5,600		中央混合 9,178×0.25×1.27(割増率)
	敷均し工	m2	9,178.0	400		モータグレーダ ブレード幅3.1m 手元共
	転圧工	m2	9,178.0	240		タイヤローラ8～20tマカダム ローラ10～12t
	アスファルト乳剤	L	11,564.2	45		9,178m2×1.2L×1.05(割増率)
	乳剤散布工	m2	9,178.0	25		ディストリビュータ使用 手元共
	養生砂	m3	28.9	3,500		9,178m2×0.003×1.05(割増率)
	砂散布	m2	9,178.0	50		
セメント安定処理路盤工	交差点取付部 t=20cm	m2	895.0	2,200	1,973,351	
	セメント安定処理材	m3	227.3	5,600		中央混合 895×0.20×1.27(割増率)
	敷均し工	m2	895.0	400		モータグレーダ ブレード幅3.1m 手元共
	転圧工	m2	895.0	240		タイヤローラ8～20tマカダム ローラ10～12t
	アスファルト乳剤	L	1,127.7	45		895m2×1.2L×1.05(割増率)
	乳剤散布工	m2	895.0	25		ディストリビュータ使用 手元共
	養生砂	m3	2.8	3,500		895m2×0.003×1.05(割増率)
	砂散布	m2	895.0	50		
歩道路盤工	t = 100	m2	1,800.0	1,150	2,075,220	
	粒度調整碎石 M-30	m2	228.6	2,700		1,800m2×0.1×1.27(割増率)
	人力敷均し工	m2	1,800.0	650		
	転圧工	m2	1,800.0	160		振動ローラ 搭乗式コンバインド型3～4t 排ガ型
雑材雑工		式	1.0		5,905	

2. 路盤工

計

29,910,000 円

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
3. 舗 装 工						
3.1コンクリート舗装工						
型枠工(A)	一般部	m2	1,422.0	4,380	6,228,360	
	鋼製型枠損料	m2	1,422.0	750		h=250
	型枠組立・解体工	m2	1,422.0	2,130		
	場内小運搬・積卸し	式	1.0	2,133,000		
型枠工(B)	交差点部	m2	840.0	4,940	4,149,600	
	鋼製型枠損料	m2	840.0	750		h=250
	型枠組立・解体工	m2	840.0	2,690		
	場内小運搬・積卸し	式	1.0	1,260,000		
RCCP舗設工(A)	一般部 t=250	m2	4,455.0	4,520	20,129,530	
	転圧コンクリート材	m3	1,158.3	14,600		4,455×0.25×1.04
	Asフィニッシャ運転	式	1.0	1,450,000		全自動高締固型(輸入) W=3~12m 運転経費共
	舗設費	m2	4,455.0	200		修理費サニーホース50m等含む
	雑材	式	1.0	30,900		段取り含む
	転圧工	m2	4,455.0	190		ゴム加工車輪VR11~12t タイヤローラ21~30t
RCCP舗設工(B)	交差点部 t=250	m2	4,215.0	4,820	20,301,940	
	転圧コンクリート材	m3	1,095.9	14,600		4,215×0.25×1.04
	Asフィニッシャ運転	式	1.0	2,020,000		全自動高締固型(輸入) W=3~12m 運転経費共
	舗設費	m2	4,215.0	310		修理費サニーホース50m等含む
	雑材	式	1.0	90,000		段取り含む
	転圧工	m2	4,215.0	210		ゴム加工車輪VR11~12t タイヤローラ21~30t
養生工(A)	一般部	m2	4,455.00	530	2,356,550	7日間散水養生
	養生マット	m2	4,455.00	300		
	設置及び撤去	m2	4,455.00	110		
	散水工	式	1.00	530,000		
養生工(B)	交差点部	m2	4,215.00	690	2,910,725	7日間散水養生
	養生マット	m2	4,215.00	350		
	設置及び撤去	m2	4,215.00	165		
	散水工	式	1.00	740,000		
横収縮目地工	W=6mm D=40mm	m	738.00	1,600	1,180,800	
	一次切削	m	738.00	350		1枚刃3mm×40mm
	二次切削	m	738.00	700		6mm×40mm
	目地材加熱注入工	m	738.00	550		瀝青系加熱注入目地材 材工共

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
横膨張目地工	W=20mm D=250mm	m	58.00	6,610	383,380	
	一次切削	m	58.00	350		1枚刃3mm×40mm
	二次切削	m	116.00	2,100		20mm×250mm(2回)
	目地板 t=20×250mm	m	58.00	1,300		瀝青繊維質板 材工共
	目地材加熱注人工	m	58.00	760		瀝青系加熱注入目地材 材工共
縦目地(A)	W=6mm D=40mm	m	965.0	1,250	1,206,250	
	切削 W=6mm D=40mm	m	965.0	700		
	目地材加熱注人工	m	965.0	550		瀝青系加熱注入目地材 材工共
縦目地(B)	W=10mm D=250mm	m	588.0	2,670	1,569,960	
	切削 W=10mm D=250mm	m	588.0	960		
	目地板 t=10×250mm	m	588.0	1,050		瀝青繊維質板 材工共
	目地材加熱注人工	m	588.0	660		瀝青系加熱注入目地材 材工共
雑材雑工		式	1.0	3,655	3,655	

3.1 コンクリート舗装工

計

60,420,750 円

3.2アスファルト舗装工

歩道舗装工	t=40	m2	1,710.0	1,540	2,626,000	
	アスファルト乳剤	L	2,154.6	45		1,710×1.2L×1.05
	アスファルト乳剤散布	m2	1,710.0	40		エンジンスプレヤ 手元共
	細粒度As混合物	t	161.8	7,000		1,710×0.04×2.15×1.1
	舗設工	m2	1,710.0	700		アスファルトフィニッシャW2.4~5m 手元共
	雑材	式	1.0	2,793		
	転圧工	m2	1,710.0	75		振動ローラ 搭乗式コンバインド型3~4t 排ガ型

3.2 アスファルト舗装工

計

2,626,000 円

3. 舗装工

合計

63,046,750 円

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

4. 排 水 工

4.1街 渠 工

街渠(A)		m	570.0	8,640	4,924,100	
	生コンクリート 18N/mm2	m3	95.6	9,500	90.2m3 × 1.06(割増率)	
	型枠工	m2	233.7	4,200	材工共	
	歩車道境界ブロックC種	個	941.0	1,160	180/240 × 300 × 600	
	据付モルタル 1:3	m3	1.3	36,000	材工共	
	目地モルタル 1:2	m3	0.3	40,000	材工共	
	打設工及び据付工	m	570.0	3,200		
	雑材	式	1.0	60,000		

4.1 街渠(A)

計

4,924,100 円

4.2街渠樹工

街渠(A)		個	30.0	42,750	1,282,450	
	再生砕石 RC40~0	m3	3.0	2,300	90.2m3 × 1.06(割増率)	
	生コンクリート 18N/mm2	m3	0.1	9,500	材工共	
	L型縁塊	個	30.0	8,300	国土交通省 3 型	
	同上ふた	個	30.0	8,400		
	集水樹躯体工	個	30.0	15,500	国土交通省 3 型	
	目地モルタル 1:2	m3	0.1	46,000	材工共	
	街渠樹据付	個	30.0	10,100	基礎砕石工・コンクリート工含む	
	雑工材	式	1.0	1,000		

4.2 街渠樹工

計

1,282,450 円

4. 排水工

6,206,550 円

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

5. 道路付属施設工

5.1防護柵工

ガードレール設置工	A-4E 土中立込用	m	780.0	7,110	5,545,800	
ガードパイプ設置工	BP-2E 土中立込用	m	310.0	9,370	2,904,700	

5.1 防護柵工 計 8,450,500 円

5.2区画線工

区画線	実線(白癪)W=150	m	2,117.0	549	1,162,042	高輝度路面表示(未供用)
区画線	破線(白癪)W=150	m	252.0	570	143,718	高輝度路面表示(未供用)
	横断歩道及びゼブラ	m2	220.0	636	139,827	高輝度路面表示(未供用)

5.2 区画線工 計 1,445,587 円

5.3雑工

雑材雑工		式	1.0		28,913	
------	--	---	-----	--	--------	--

5.3 雑工 計 28,913 円

5. 道路付属施設工 計 9,925,000 円

6. 仮 設 工

現場照明設備		式	1.0	250,000	250,000	
--------	--	---	-----	---------	---------	--

6.1 仮設工 計 250,000 円

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

7. 運 搬 費

各種機械運搬		式	1.0		2,006,000	運転経費共
	モータグレーダ	往復	1.0	100,000		11tトラック
	タイヤローラ 8~20t	往復	1.0	180,000		20tトレーラ
	マカダムローラ 10~12t	往復	1.0	100,000		11tトラック
	振動ローラ 11~12t	往復	1.0	100,000		11tトラック
	タイヤローラ 21~30t	往復	1.0	180,000		20tトレーラ
	Asフィニッシャ 高締固型	往復	1.0	220,000		30tトレーラ
	RCCP鋼製型枠 250×3000	往復	5.0	130,000		11t(クレーン装置付)トラック
	Asフィニッシャ 2.4~4.5m	往復	1.0	100,000		11tトラック
	振動ローラ 3~4t	往復	1.0	76,000		4tトラック
	雑機器材	往復	3.0	100,000		11tトラック

7. 運搬費 合計 2,006,000 円

8. 準 備 費

準備・跡片付け		式	1.0		588,000	
	仮設建物用地整地	式	1.0	588,000		
測 量 費		式	1.0		1,300,000	
	測量器材	式	1.0	300,000		機器・丁張り材・テープ等
	測量手元	式	1.0	1,000,000		11,600×15D/M×6.0

8. 準備費 合計 1,888,000 円

9. 役 務 費

地代	機械器材置場	m2.月	2,970	700	2,079,000	495m2×6.0箇月
----	--------	------	-------	-----	-----------	-------------

9. 役務費 合計 2,079,000 円

細 別	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

12. 営 繕 費

各種建物・設備		式	1.0		11,237,000	
現場事務所	ユニットハウス 2.25m×7.35m	棟	1.0	252,700	252,700	
	ユニットハウス損料	棟・日	180.0	560		1棟*6.0箇月*30
	ユニットハウス基本管理費	棟	1.0	18,700		
	ユニットハウス運搬費	回	2.0	50,000		
	ユニットハウス組立解体	式	1.0	33,200		
作業員休憩所	ユニットハウス 2.25m*7.35m	棟	2.0	252,700	505,400	
倉庫・試験室	ユニットハウス 2.25m*7.35m	棟	1.0	252,700	252,700	
トイレ	大小手洗い2棟	棟	2.0	82,700	204,400	
	簡易トイレ損料	棟・月	12.0	3,900		2棟*6.0箇月
	簡易トイレ運搬費	回	2.0	50,000		
	簡易トイレ組立解体費	棟	2.0	28,800		
備品費	現場事務所	式	1.0	290,000	290,000	
給水設備	仮設建物	式	1.0	400,000	400,000	設置撤去共
電力・電灯設備	仮設建物	式	1.0	750,000	750,000	設置撤去共
事務所仮囲工	組立解体	m	120.0	13,500	1,620,000	H=3m 万能成形板
地代	仮設建物用地	m ² /月	2,970.0	700	2,079,000	495m ² *6.0箇月
作業員輸送費	マイクロバス	月	6.5	750,000	4,875,000	29人乗り 1台*6.5ヶ月
雑材雑工	端数調整	式	1.0	7,800	7,800	

12. 営繕費

合計

11,237,000 円